

# '88 FUJI FRESHMAN RACE ROUND-6

8月28日 富士スピードウェイ  
 主催：ビクトリーサークルクラブ(VICIC)  
 天候：晴れのち曇り  
 フォト奥村嘉邦/重信直希

いつになく激しいレース展開となった富士フレッシュマンレース。シリーズも後半戦を迎え、ポイント争いも熾烈だ。当日は1コーナーで3回もクラッシュが起きて、大事には至らなかったもののスケジュールが狂い、後半のレースは周回数を短縮された。大混乱の様をお伝えする。



クラッシュ。後続車を巻き込む大事故となったスターレット71のレース。  
 序盤の混乱をよそに白井は⑨佐藤と好バトル。2連勝を決めた(スターレット71)



今回の優勝は、早くもスタート直後、トコワイの出番を決めた佐藤。パルサーツインカム



スタートからゴールまでペースを守り、2位に3秒以上の差をつけた藤崎。ヘヤピン手前ではマフラーからバックファイアが光っていた。(レビントレノA)  
 藤崎の好調をストップさせるのははたして誰か？(レビントレノA)

## サバンナRX-7 パルサーツインカム レビントレノA TS1300 スターレット61 スターレット71

### 白井、クラッシュ横目に独走する

スタート直後、1コーナーで多重クラッシュ。合計5台のマシンがその場でリタイアとなった。他にも軽い接触をしたマシンがあったが、なんとか再スタートのグリッドに整列。⑨高橋はボディ等を簡単に修復してピットスタートだ。

そして再スタート後の序盤、⑨白井がスタート直後から快調にトップを走る。2周、3周と⑨大森祐祐を引き離していく。いっぽう2番手競いは壮絶で、4周めには⑨三沢照彦、5周めには⑨佐川哲郎と、めまぐるしく順番が交わるほどの激戦だ。

そしてチェッカーを最初に受けたのは⑨白井。後方からのプレッシャーをかなり受けていた。抜かれないうちにしながら早めにブレーキをかけていた」と見事に2連勝を決めての喜びの表情。残す2戦でも活躍することには間違いなさそう。

2位には0秒12秒差で⑨佐川、そして3位には後半ピッチを上げた⑨佐藤がつかった。この⑨佐藤は序盤のクラッシュに巻き込まれそうになり、「やはり足回りがいかれた」というマシンにもかかわらずの大健闘。

### ラスト1周に賭けた菊池初ウイン

菊池秀樹がギリギリと追い上げてきて、⑨田中とテール・ツー・ノーズの激しい攻防戦。

そして6周目の1コーナーで勝負に出た⑨菊池は⑨田中と牽制しあう間に⑨西山直宏にトップを奪われ、ラスト1周「ここが勝負だ」と思った⑨菊池は⑨西山の背後から、スタート直後スリッパを利かせて1コーナーのインからトップの座を取り戻した。

水温が98度Cを越えていたというマシンで優勝を遂げた勝負師⑨菊池の初優勝はとても重いものだろう。

### 多重クラッシュでトラブル続出

シグナルが青に変わり、心地良いエキゾーストノートを響かせて1コーナーへ飛び込むマシンの群れ。その時、⑨石森浩元のマシンがコースアウトしてサンドトラップへ。ハンドルが効かなくなった⑨石森のマシンがコースに復帰。⑨大沼哲、⑨石原陸男などが次々にクラッシュ。またもや赤旗レース中断となってしまった。

最初のグリッドに戻り再スタート。上位グループには影響がなく、ポールには「去年はいまひとつマシンが煮つまらなかった」という⑨小沢君。今年も好調だ。

再スタート後、⑨影山正美が予選9番手から一気に3番手に駆け上がり、一時は2番手にまで上がるほどの猛りだ。また、この⑨影山はマシンコントロールを著実に自分のものにして始めてきたようだ。

レースは⑨小沢がトップを快走。2番手⑨山本昭治郎と見事なまでのデッドヒート。5周めには⑨山本が一時トップにつくが、すぐ⑨小沢が奪い返してその差を広げ、2秒24差でゴールとなった。

3位には⑨影山。ベテラン⑨小沢とのタイム差は2秒以上あるもの、これからの活躍が楽しみである。

### 赤旗横目に藤崎へスズー

実はこの日は赤旗の多い日で、このレースで3回もなっていた。白熱する気持ちは分るが、1台のマシンのクラッシュのために後方のマシンが巻き添えをくってしまうのは、参加者だけではなく見る方も気持ちのいいものではない。また、この3度目の赤旗が出た時、会場から失笑の音が聞こえたほどだ。

1コーナーでの回収作業も終わって再スタート。スケジュールの都合でこのレースより後のものはすべて6周レースとなった。

さて、この日はこのところ負け知らずの⑨藤崎もこのレースで、第4戦、第5戦を2連勝で飾っており、力はいったレースが期待された。スタート後すぐに⑨藤崎は2番手以下を引き離す独走。1周めには早くも2秒6のマージンを得ていた。2番手争いは⑨岡本克彦、⑨金子誠一による激しい争い。⑨岡本は6番手スタートで急上昇だ。

けっして⑨藤崎は独走優勝。しかし本人は「後方からプレッシャーを感じて苦しかった」とのこと。

### エンジン快調、佐藤連勝決める

ポールポジションには唯一2分1秒台をマークした⑨春日勇人。そして前回優勝の強豪⑨佐藤守、常に上位入賞の⑨木下新吾が好タイムでグリッド上位につける。

スタート直後の1コーナーで、好ダッシュを決めた⑨佐藤が⑨春日のインからトップへ躍り出る。⑨春日も必死に反撃するが、ペースを崩して3番手へダウン。

⑨細瀬の好バトル。テール・ツインの出場4回めの河野が初V

### レース出場4回めの河野が初V

ポールスタートは唯一1分57秒台を叩き出した⑨奥住英徳。第1戦、第3戦では見事ポール・ツー・ウインを飾っていて、このレースでも優勝候補と目された。

やはり⑨奥住がきれいなスタートを見せ、後続を圧倒。続いて3番手スタートの⑨河野高男。2番手からの出走の⑨高藤保はクラッチを滑べらしたとこのことで、早くも4番手に順位を落とす。

トップを快調に走っていた⑨奥住だが3周、4周と周回を重ねることにペースを少しずつ落とす。原因はファンベルトが切れてオーバーヒートとなってしまったためだ。

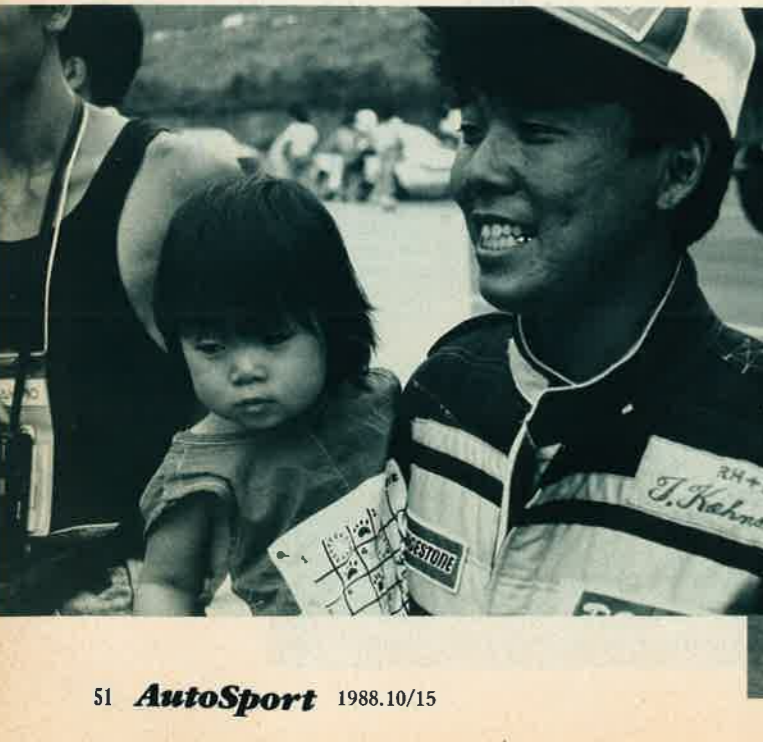
そこでトップにたつたのが「レースに出たのが4回め」というRSF



ウイニングランを済ませて仲間と初優勝を喜び合う⑨菊池。(スターレット61)  
 序盤、⑨菊池を先頭にテール・ツー・ノーズの激しいトップの奪い合い。(スターレット61)



スタート直後の混戦模様。この後、順位は大きく変わっていった。(RX-7)  
 レース中盤、トップの⑨小沢に迫る後続マシン。この後ペースを上げて2位との差を2秒以上引き離した。(TS1300)  
 ⑨メキメキ腕を上げてきたレイトンハウスの⑨影山。いずれ兄の正彦がライバルか。(TS1300)



"RSファイブ"代表の⑤河野。もちろんチーム仲間も大喜びだった。